

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870700317		
法人名	有限会社かなくぼ薬局		
事業所名	グループホームハーモニー城ノ内		
所在地	茨城県結城市結城8670-2		
自己評価作成日	2014・1・19	評価結果市町村受理日	平成26年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0870700317-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成26年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然の光を取り入れ、広々とした住環境、段差なしで外に出られるバリアフリーの玄関 8年の実績の積み重ねにより、地域との交流を深め、納涼祭には地元の方たちが大勢参加して下さり、地域に密着した施設になってきた。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>広々とした田園風景の中に立地しているホームは、筑波山や日光連山が眺望できる環境にある。建物は自然採光を取り入れ、全体的に基準より広いスペースの間取りになっていて、ゆったり過ごせる空間である。玄関先には季節を感じさせる蠟梅が飾ってあったり、ホームのロゴマークである「フクロウ」の手作り作品が飾ってあり、ホームでの様子がうかがわれる。ホームの存在は地域にも浸透し始め、納涼祭には地域のお囃子や山車を持参で参加してくれたり、ボランティアの協力も得られている。職員教育もしっかりされており、各種委員会毎に基本的なサービスの在り方などが整理されている。理にかなった介護を目指すオーナーを理解する管理者は、職員からの信頼も厚く、頼られる存在となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関や出入り口に理念を掲示し共有と実践に取り組んでいる、新入職員に対してもオリエンテーションで理解をしてもらえるように取り組んでいる。	理念は正面玄関に掲示し、外部の人とも共有して実践に努めている。スタッフには事務所に掲示したのを見て確認するように伝えてある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などを通じて近隣の人と挨拶を交わしたり、施設の行事があるたびにお招きしたり、ボランティアの受入、交流している。	市のふれあいまつりに参加した。幼稚園児との交流で笑顔があふれ、昔の歌に利用者同士の会話も弾んでいた。ホーム主催の納涼祭は、年々参加してくれる地元の人が増えている。昨年は100人近く来てくれた。集まった方にホームとしての振る舞いも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員、老人会などイベントごとに参加していただき認知症への理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議において主要日誌の報告をし、出席された方々のご意見をいただきサービス向上に努めている。	昨年の外部評価を受けて、会議の参加者に感想を書いてもらっている。会議では意見を出せない人もアンケートには書いてくれた。看取りの経験を会議で話し、勉強になったとの意見も聞かれた。参加できなかった家族には、月1回の請求書と一緒に議事録を送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には事業所の実情や取り組みを伝え、関係づくりも行っている。	市の担当者に推進会議に出席してくれたお礼を伝え、次回の参加のお願いするという心配りをすることで、良好な関係が構築されている。昨年からは結城市の地域密着型連絡会に参加し、勉強会を通じて市との連携もできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	23年10月より身体拘束廃止委員会をつくり、指針を策定し、定期的に委員会を開催している。	身体拘束廃止委員会を昨年立ち上げ、拘束と思われる事柄について検討する。1名転落防止のため4点柵使用しているが、家族に説明し了解を貰っている。緊急時や、やむを得ない場合の身体拘束に関する説明書作成し、必要時にサインを貰っている。(理由と期間を明記)	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修の受講、資料の回覧、セクション会議での話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1人入居者の方に後見人制度を利用されている方がおり、身近に経験できる機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居に関しては、事前訪問、施設見学、面接などを行い、じゅうぶんに理解していただくよう努めている。料金の改定については、家族会総会時や、文書や、面会時、において説明を行い、同意をいただくことにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価によるアンケート、家族会総会においての話し合いや交流、利用料の支払時、施設行事の時の対応時などにおいてご意見をいただき運営に反映できている。	家族会(ひまわり会)の時は、一人ずつ意見を出してもらった。利用者が入院した時のお見舞いの意見が出された。家族会終了後に利用者と家族一緒にレストランを貸切り食事に行く。刻み・トロミ食の方でも食べられるようにヘルパーも同行。利用者はこれを励みとし、家族にもとても喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週土曜日に行うリーダー会議、月1回行うセクション会議、個別面談、などにおいて職員の意見を話す機会があり、反映できる。	毎週リーダー会議を30分位で行う。1週間の行事予定や研修として新聞の切り抜きのコピーを使ったりする。例えば「介助工夫で食欲アップ」など。社長は食事をしっかり摂ることで褥瘡がよくなった例から、食の大切さを職員に気づいてほしいと思った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況、事情を管理者を通して把握し、研修の参加、労働時間の調整、手当てなどを整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会へ職員に出席していただき、研修後は伝達講習を開くよう努めている。認知症の実践者研修への参加により、実習の過程で互いにケアに取り組み結果を出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	結城市地域密着型サービス連絡協議会の場において様々な意見の交流が図られている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が事前にご本人やご家族に面会しバックグラウンドを作成し、暮らしている状況やエピソードなどをうかがいながら、互いの信頼関係を深めるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時、入居申し込み時、契約時に話を聞いている。入居されてはじめてのお食事はご家族と一緒に召し上がっていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思い、状況を確認し、必要としている状況を見極め、可能な限り柔軟な対応ができる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する支援される側という意識を持たず互いに協働しながら和やかな生活ができる様に場面づくりや声かけをしている。昔の風習や郷土料理を教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診、周年祭家族会総会、運動会、納涼祭などにご家族を招待し、ともにひとときを楽しく過ごしていただきご本人を支えていく関係づくりに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会など家族との触れ合いを大切に馴染みの知人友人と面会できる様支援している。絵手紙を家族に送ったり返事が届いたりする。	バックグラウンドシートを作成し、その中からその人の馴染みのものを把握して継続できるような支援を行っている。例えば、一番風呂の習慣があった人にはホームでもそのまま継続できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お食事の時の座席を配慮したり、お茶の時間や役割活動を職員も共に行い、互いの係わり合いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には入居者とお見舞いに病室へ行ったり、自宅に戻られた方には、居宅のケアマネジャーさんの協力をいただき訪問したり、施設行事に招待したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の会話から一人ひとりの希望意向の把握に努め、困難な場合は、職員の思いではなく相手の立場に立つことが大切と考え、職員間で検討したり家族に確認しながら個別の経過記録に残しケアプランに活かしている。	日々の生活の中で直接お話を聞くことで把握することが多い。家族から聞くこともあり、スタッフによっていろいろな情報が入るので、経過など共有に努めている。意向の把握が困難な場合でも、スタッフの主観に偏らないよう話し合いの中で十分に確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のCMやご本人ご家族から伺ったことを職員間での共有に努め生活歴などに書き込み、処遇に反映されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、セクション会議、の時に一人ひとりについて気付いた事気付かなかった事など報告したり業務日誌に記入したりして状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	セクション会議、担当者会議などにおいてNSも交えたりして話し合い、介護計画を作成している。	バックグラウンドシートを参考に、各ユニットごとにケアマネが作成。月1回各ユニットごとにセクション会議を行い、生活支援計画(モニタリング)について現状、新しいニーズ、今後の取り組みについて話あう。会議録は職員が交代でまとめる。担当者会議は不定期、プランの更新時に行う。ニーズについては、日常生活動作、生活リズムなど細かな項目が設定してあり、丁寧な記録である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録、受診ノート、への記録を職員間で共有しケアに反映させ、プランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ヘアカットのサービス、DSと合同の行事参加、個別送迎による外来受診の支援など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の先生による生きいき体操、フラダンス歌謡ショー、城ノ内老人クラブの方たちと互いに交流、10月には結城市ふれあい祭りに参加され、地元の方たちとともに楽しまれた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族からのご希望により協力医療機関の大木医師による往診を受け、病状によっては医師の指示に従い、ご家族に連絡し、速、外来受診の支援を行っている。受診ノートを活用している。	今までのかかりつけ医で受診、家族がいけない場合は職員が通院介助することもある。利用開始後に協力医に変わることもある。協力医は毎月1回往診してくれるが、利用者からの信頼も厚く健康面での安心にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝NSによりバイタルチェックを行い、一人ひとりの状況の確認、服薬の確認などができている。入浴時にも連携し患部の処置なども対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はかかりつけ医の指示に従い受け入れ病院との連携がとれる。退院時は看護要約、情報提供、家族との意見交換などにより受入対応し1日でも早く退院できるよう連携を図っている。また各病院と連携のためJ病院、Y病院のMSWIに管理者が時々訪問している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	徐々に昨年12月29日に看取りを無事行うことが出来た。穏やかな最期でした。看取りの指針に沿い入居契約時には説明するが、同意については後日となることが常のため、家族会総会時に説明している。	昨年10月に看取りを経験したが、キーパーソンである姪子さんから「とてもよかった」と感謝された。スタッフにとっても、病院から帰ってきて、徐々に弱っていく姿を見ながらの介護は勉強になり、自信に繋がった。会長が用意した白いカーネーションを手利用者全員で見送ったことも喜ばれた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	結城消防署において救急救命講習会が開催され、毎年数名受講している。緊急時の対応についてNSよりじかに指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回結城消防署立会いの下消火訓練、非難訓練を計画し実行している。運営推進会議においても報告の機会を持ち、近隣の方々に協力していただく話し合いもできている。	消防署立ち合いで年2回実施。昨年は夜間想定で行ったが、少し時間がかかった。避難には利用者の「立つ」という動作が重要と気づき、下肢筋体操を行うようになった。備蓄もあり、玄関入り口にヘルメットを人数分用意し月1回磨いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ誘導時、入浴時など声かけに注意をしている。日頃から言葉遣いにも注意し職員間で気づいた時はセクション会議で話し合う機会を設けている。	特に排泄や入浴時の声掛けに気を付けている。排便の有無を確認する方は耳元で声掛けをし、恥ずかしい場所での声掛けや若いスタッフとの相性などを考慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	書道や絵手紙教室などの活動への参加、買い物外出、外食時の注文など自分で選べるような働きかけをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操、新聞やテレビ、折り紙、ちぎり絵作り、カラオケ、音楽鑑賞、買い物、ドライブ、などご利用者の希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	納涼祭にはお化粧をしたり、外食のお出かけには帽子やスカーフを選んでおしゃれをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事やおやつが楽しみになるよう一緒に作ったりしている。梅を並べて干したり、どうもろこしの皮をむいたり、落をこしらえたり、また食器の片付けはいつも職員と協力して行っている。	献立、買い出しは会長が行う。季節に合わせたものを取り入れている。厨房があり、調理専任の職員が配食サービスの食事も作っている。2月は豆まきをし、イワシを焼いて食べた。利用者はテーブル拭きや下膳などできることを手伝っている。正月にはおせち料理とお屠蘇がふるまわれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事、水分摂取について把握できるよう記録している。不足や変化が見られる時は速NSと連携し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に必ず口腔体操を行っている。食後には口腔ケアの実行を促し介助、確認している。三木歯科医師により指導もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	H23年10月に排泄向上委員会を立ち上げ自立支援の立場に立ち、排泄介護の向上を目指し定期的に委員会を開催し現場に反映させ職員の意識向上をはかっている。	排泄向上委員会の会議を2ヶ月ごとに開催し、排泄の自立に向けた話し合いを行っている。議事録を作成し全員が共有、問題点と次回の課題を出し合い支援に活かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の麦飯、ヨーグルト、散歩や下肢筋体操、水分補給、などを行い、排泄表を活用し、NSと連携し下剤の内服など個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴して頂ける様準備を支援し余裕を持って誘導し、嫌がる方には安心して楽しめるような工夫と声かけを行い対応している。	女性の後はいやと拒否あった男性でも声掛けの工夫で入浴できるようになった。入浴は一日おきで、13時過ぎにバイタルチェックして始まる。往診日の前日には全員入る。ゆず湯、入浴剤も楽しんでいる。褥瘡がある人、皮膚に出血のある人は毎日入浴する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたい時は自由にしている。照明やドア閉めが気になる、なかなか眠れないなど、一人ひとりの状況に対応して安心して眠れる様対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報をいつでも確認できるようファイリングしてある。服薬の準備、確認について業務日誌に担当者が記入し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し掃除食器かたづけ、歌、書道、編み物、絵、などそれぞれの役割や楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の対応により、毎朝日光浴に屋外に出る、ケーキショップでケーキを食べたり、家族とともにレストランでフルコースの食事ができた。初詣にはお賽銭を投げ、御祓いも受けられた。	安眠効果もあり毎朝体操と散歩は欠かさない。寒いときは駐車場で日光浴のこともあり、運動公園にも行ったりする。裏に畑があり、利用者とスタッフで耕作する。なす、レタス、みかんなどを収穫したり戸外での活動もある。みんなで梅干し作りも楽しんだ。正月には初詣に出かけ、祝詞をあげてもらう。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金の所持はしていないが、機会をつくり、お金を持たせ、買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族あてに年賀状を書いて送ったり、希望があれば事務所で自宅に電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	70㎡に季節の花を生けたり、中庭には草花が季節ごとに咲き、廊下には書棚があり好きな本を選んだり読むことができる、ピアノを楽しんだり、カラオケをしたりできる様支援している。	広々とした明るい廊下とホール。掃除は隅々まで行き届き、中庭を挟んで落ち着く空間。窓からは筑波山や日光連山が見える。本をゆっくり読めるように廊下に椅子やソファを置く。畳スペースあり。いたるところに植木鉢、花、切り花、蛸梅などが飾っている。鬼の面やふくろうなど手作りのものが飾られている。手紙、書道など芸術展を行った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみのスペースや、廊下にはソファやテーブルを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を置いたり、自分の作品を飾ったり、自宅からなるべく馴染みのものを持ってくるようにしている。	仏壇、机、テーブル、イス、テレビ衣装ケースなどを持ち込む人もいる。シンプルだが、写真や作品、絵なども飾られ、それぞれが落ち着ける空間になっている。居室もきれいに整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、手すりをつけ、自然光を取り入れ、広々とした空間を整えている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームハーモニー城ノ内

作成日:平成26年4月20日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	33	意識機能が低下、生理機能が低下、一日中うとうとした状態の入居者が増えてきて、重度化や終末期に向けた支援のしかたや、方針の共有、家族との信頼関係について不安がある。	終末期においてもひとり一人を尊重し、栄養・水分・清潔の保持を図り、覚醒を促し心地よさを支えられる。	認知症の理解と口腔ケア清潔ケアなどの学習、応急手当や処置の学習、チームケアの学び、等を行い、看とりの指針についてもNSと共に家族にも参加していただき共有する機会を持つ。 12か月
2	37	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援、入居者ひとり一人の希望の表出や自己決定の支援に対応しきれしていない。	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり自己決定できるように働きかけ支援できる。	外出の支援やレクを増やす。全職員が入居者ひとり一人の生活歴や生き方を把握し支援につなげることを理解し取り組んでいく。 12カ月
3	35	災害対策では年2回の消防訓練を行っているが体験していない職員がいるため全職員が訓練に参加し体験できるよう取り組みたい。	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いていくこと。	毎月のセクション会議の後に訓練を行い、各自の安全を守ることを身につけるよう取り組む。 12か月
4				ヶ月
5				ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。